

平成28年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成28年5月10日

上場会社名 株式会社エーワン精密 上場取引所 東
 コード番号 6156 URL http://www.a-one-seimitsu.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 林 哲也
 問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 林 哲也 (TEL) 042-363-1039
 四半期報告書提出予定日 平成28年5月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年6月期第3四半期の業績(平成27年7月1日～平成28年3月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年6月期第3四半期	1,434	0.7	391	5.3	403	8.3	460	67.5
27年6月期第3四半期	1,424	5.6	372	13.4	372	7.8	274	13.0
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
28年6月期第3四半期	191.95		—					
27年6月期第3四半期	94.55		—					

(注) 当社は平成28年1月1日付で普通株式1株につき普通株式2株の割合で株式分割を行っております。そのため前事業年度の期首に株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年6月期第3四半期	7,947	7,248	91.2
27年6月期	7,934	7,159	90.2

(参考) 自己資本 28年6月期第3四半期 7,248百万円 27年6月期 7,159百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年6月期	—	0.00	—	90.00	90.00
28年6月期	—	0.00	—		
28年6月期(予想)				50.00	50.00

(注) 1 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2 当社は平成28年1月1日付で普通株式1株につき普通株式2株の割合で株式分割を行っております。そのため上記の平成28年6月期(予想)の配当金額は、当該株式分割後のものを記載しております。

3. 平成28年6月期の業績予想(平成27年7月1日～平成28年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,900	△1.1	498	△0.6	520	3.3	534	19.4	222.62

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数 (四半期累計)

28年6月期3Q	3,000,000株	27年6月期	3,000,000株
28年6月期3Q	600,600株	27年6月期	600,474株
28年6月期3Q	2,399,474株	27年6月期3Q	2,907,556株

(注) 平成28年1月1日付で、普通株式1株につき普通株式2株の割合で株式分割を行っております。そのため期末発行済株式数 (自己株式を含む)、期末自己株式数、期中平均株式数 (四半期累計) については、当該株式分割の影響を考慮して記載しております。
(当該株式分割が前会計年度の期首に行われたと仮定して算出しております。)

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表レビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、ほぼ横ばいの状態で推移しました。国内製造業に関しては生産量が頭打ちとなり減少傾向を示す企業も出てきて、全般的には緩やかながら減産傾向となってきました。大手企業の設備投資については、その動きも一時に比較して鈍化してきておりますが、国内製造業の中心が多品種小中ロットの高付加価値部品に移行するなかで設備の更新、改造のニーズは継続しているものと思われま

す。今年の1月から3月にかけて国内製造業の生産は自動車分野ではやや減産となり、付随する設備や単品加工、試作加工は頭打ちから減少となっております。一方で精密機器、電子・医療分野、専用機など世界的に競争力のある加工難易度の高い部品加工や納期の短い部品加工などを中心に3月年度末に掛けて動きがありました。このように動きの出た精密・高度化部品などと減産傾向を示した自動車を中心とした設備、単品加工などもあり、業種や企業によって業況に格差のある展開となりました。

海外については、米国は個人消費が依然として堅調に推移しており世界の消費市場を牽引しています。企業業績は減益に転じており原油を始めとした資源価格の下落、為替のドル高による収益減少となりました。中国は経済成長率の減速が継続しており、資本財・生産財の在庫調整に時間を要する展開となり、しばらくは低調な状態が継続すると思われま

す。このような状況のなかコレットチャック部門では、加工難易度の高い精密部品加工と多品種小中ロット品の加工が堅調に推移したと思われ、当セグメントの受注も前年同期に比較して緩やかながら増加となりました。この結果、当セグメントの第3四半期累計期間の売上高は997,287千円(前年同期比2.0%増)、セグメント利益は498,964千円(前年同期比2.3%増)となりました。

切削工具部門では、設備関連や単品加工が頭打ちとなったことと標準切削工具の再研磨の価格競争が激化したことなどで受注環境は厳しくなりました。一方で小中ロットの複雑部品加工に使用される特殊切削工具は堅調に推移し、当セグメント全体として売上は微減となりました。利益面では固定費の減少により微増益となりました。この結果、当セグメントの第3四半期累計期間の売上高は410,158千円(前年同期比1.8%減)、セグメント利益は113,432千円(前年同期比7.3%増)となりました。

自動旋盤用カム部門では、カム式自動旋盤で加工する量産品が減少したと思われ、当セグメントの受注も減少しました。この結果、当セグメントの第3四半期累計期間の売上高は27,160千円(前年同期比9.7%減)、セグメント利益は10,509千円(前年同期比9.6%減)となりました。

これらの結果、当第3四半期累計期間の売上高は1,434,606千円(前年同期比0.7%増)、営業利益は391,979千円(前年同期比5.3%増)、経常利益は403,776千円(前年同期比8.3%増)、四半期純利益は460,595千円(前年同期比67.5%増)となりました。

セグメント別の売上は、以下のとおりであります。

(%表示は対前年同期比)

事業部門別	期別		第25期 第3四半期		第26期 第3四半期		第25期	
	(自 平成26年7月1日 至 平成27年3月31日)		(自 平成27年7月1日 至 平成28年3月31日)		(自 平成26年7月1日 至 平成27年6月30日)			
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
コレットチャック部門	977	(105.8)	997	(102.0)	1,321	(105.9)		
切削工具部門	417	(106.0)	410	(98.2)	556	(105.0)		
自動旋盤用カム部門	30	(96.8)	27	(90.3)	41	(94.8)		
合計	1,424	(105.6)	1,434	(100.7)	1,920	(105.3)		

(2) 財政状態に関する説明

(1) 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第3四半期会計期間末における流動資産の残高は、5,264,985千円(前事業年度末は4,561,096千円)となり703,889千円の増加となりました。これは、受取手形及び売掛金が8,868千円、仕掛品が4,462千円減少しましたが、現金及び預金が615,772千円、有価証券が100,000千円増加したこと等によるものであります。

また当第3四半期会計期間末における固定資産の残高は、2,682,380千円(前事業年度末は3,373,383千円)となり691,003千円の減少となりました。これは、繰延税金資産が73,316千円増加しましたが、投資有価証券が709,941千円、建物及び構築物が28,846千円、機械装置及び運搬具が22,819千円減少したこと等によるものであります。

この結果、当第3四半期会計期間末における総資産は、7,947,366千円(前事業年度末は7,934,479千円)となりました。

(負債)

当第3四半期会計期間末における流動負債の残高は、269,807千円(前事業年度末は293,906千円)となり24,098千円の減少となりました。これは、未払金が1,966千円、買掛金が1,766千円増加しましたが、未払法人税等が14,819千円、その他が10,464千円、役員賞与引当金が2,547千円減少したことによるものであります。

また、当第3四半期会計期間末における固定負債の残高は、428,700千円(前事業年度末は481,005千円)となり52,305千円の減少となりました。これは、役員退職慰労引当金が10,300千円増加しましたが、繰延税金負債が47,767千円、退職給付引当金が14,838千円減少したことによるものであります。

この結果、当第3四半期会計期間末における負債合計は、698,507千円(前事業年度末は774,912千円)となりました。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産の残高は、7,248,858千円(前事業年度末は7,159,567千円)となり89,291千円の増加となりました。これは、その他有価証券評価差額金が263,072千円減少しましたが、利益剰余金が352,616千円増加したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の見通しにつきましては、平成28年2月1日発表の業績予想どおりとなる見込みであります。

2. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年6月30日)	当第3四半期会計期間 (平成28年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,411,833	4,027,606
受取手形及び売掛金	433,102	424,234
有価証券	500,000	600,000
製品	2,828	2,925
原材料	26,270	27,562
仕掛品	163,687	159,225
繰延税金資産	25,198	24,274
その他	716	1,231
貸倒引当金	△2,541	△2,073
流動資産合計	4,561,096	5,264,985
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	564,939	536,093
機械装置及び運搬具(純額)	549,490	526,671
土地	319,337	319,337
その他(純額)	3,039	2,282
有形固定資産合計	1,436,806	1,384,384
無形固定資産	5,772	4,172
投資その他の資産		
長期預金	1,101,400	1,101,400
投資有価証券	826,750	116,809
長期前払費用	2,605	2,248
繰延税金資産	-	73,316
その他	626	625
貸倒引当金	△578	△578
投資その他の資産合計	1,930,804	1,293,823
固定資産合計	3,373,383	2,682,380
資産合計	7,934,479	7,947,366
負債の部		
流動負債		
買掛金	14,715	16,482
未払金	117,128	119,095
未払法人税等	119,781	104,961
役員賞与引当金	12,600	10,053
その他	29,680	19,215
流動負債合計	293,906	269,807
固定負債		
退職給付引当金	362,518	347,680
役員退職慰労引当金	70,720	81,020
繰延税金負債	47,767	-
固定負債合計	481,005	428,700
負債合計	774,912	698,507

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年6月30日)	当第3四半期会計期間 (平成28年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	292,500	292,500
資本剰余金	337,400	337,400
利益剰余金	7,087,733	7,440,349
自己株式	△840,686	△840,939
株主資本合計	6,876,947	7,229,310
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	282,620	19,547
評価・換算差額等合計	282,620	19,547
純資産合計	7,159,567	7,248,858
負債純資産合計	7,934,479	7,947,366

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成26年7月1日 至平成27年3月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成27年7月1日 至平成28年3月31日)
売上高	1,424,983	1,434,606
売上原価	825,461	817,595
売上総利益	599,522	617,010
販売費及び一般管理費	227,160	225,031
営業利益	372,361	391,979
営業外収益		
受取利息	937	1,395
有価証券利息	12,292	705
受取配当金	12,158	4,167
その他	2,868	5,529
営業外収益合計	28,257	11,797
営業外費用		
自己株式取得費用	27,922	—
営業外費用合計	27,922	—
経常利益	372,696	403,776
特別利益		
固定資産売却益	79	—
投資有価証券売却益	59,506	293,846
特別利益合計	59,586	293,846
特別損失		
有形固定資産除却損	—	10
特別損失合計	—	10
税引前四半期純利益	432,282	697,612
法人税、住民税及び事業税	152,414	234,422
法人税等調整額	4,949	2,594
法人税等合計	157,364	237,017
四半期純利益	274,918	460,595

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自平成26年7月1日 至 平成27年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期損益計 算書計上額 (注)2
	コレット チャック部門	切削工具部門	自動旋盤用 カム部門	計		
売上高						
外部顧客への売上高	977,294	417,622	30,066	1,424,983	—	1,424,983
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	977,294	417,622	30,066	1,424,983	—	1,424,983
セグメント利益	487,693	105,697	11,622	605,014	△232,652	372,361

(注)1 セグメント利益の調整額は、製造部門共通費△5,491千円と主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期累計期間(自平成27年7月1日 至 平成28年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期損益計 算書計上額 (注)2
	コレット チャック部門	切削工具部門	自動旋盤用 カム部門	計		
売上高						
外部顧客への売上高	997,287	410,158	27,160	1,434,606	—	1,434,606
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	997,287	410,158	27,160	1,434,606	—	1,434,606
セグメント利益	498,964	113,432	10,509	622,906	△230,927	391,979

(注)1 セグメント利益の調整額は、製造部門共通費△5,896千円と主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。